貝類資源開発調査

Ⅰ 調査目的

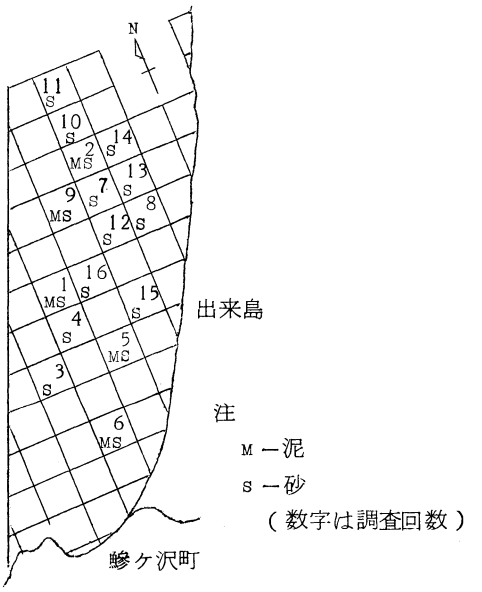
本県日本海における，未利用貝類資源漁場を開発し沿岸漁民の生産向上に寄与する。

Ⅱ 調査内容

1. 調査期間　昭和４５年７月１４日から同年７月３０日まで及び，昭和４６年１月１０日から同年２月１３日まで
2. 調査場所　青森県日本海海域（主として鰺ケ沢沖）
3. 調査員及び調査船
   (1) 調査員　技師沢田兼造　技師田村真通
   (2) 調査船　委託船第３長栄丸（３.４９トン２５馬力）
   　試験船　青鵬丸（１９.９４トン～１７０馬力）
4. 調査項目
   (1) 漁　場
   (2) 漁具別時期別漁獲量
   (3) 漁獲物組成
5. 調査方法
   昭和４５年７月１４日～同年７月３０日までは委託船第３長栄丸で，昭和４６年１月１０日～同年２月１３日まで１１日間試験船青鵬丸でツブ籠を用いて実施した。

Ⅲ 調査結果

1. 漁　場
   (1) 委託船第３長栄丸では主として鰺ケ沢港から北東6.6浬の範囲でもって水深１０～１５ｍの砂泥地帯を対象にして調査を行なった。
   第１図　委託船調査漁場図

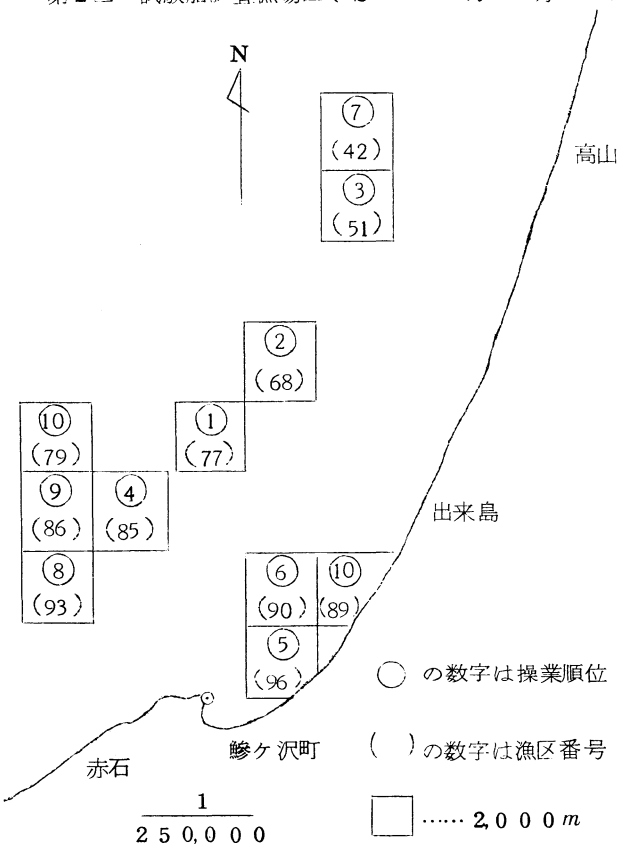


(2) 昭和４６年１月～同年２月１３日まで試験船青鵬丸で冬期間の日本海（主として鰺ケ沢沖合）の貝類の棲息分布調査を実施した。その調査表（第１表）並に調査漁場図は第２図のとおり。

第１表　昭和４５年度冬期間における調査表

操業No.	投籠 月日	海区	時間	籠数	漁場状況 水深	底質	底層水温	地形	投籠方向	揚籠 月日	時間	籠数
					m		℃					
1	1.10	77	09.30～09.50	38	55～45	S	10.4	平担	N～S	1.13	07.40～08.30	38
2	1.13	68	11.00～11.30	40	55～60	S	9.5	〃	E～N	1.15	13.00～13.50	40
3	1.15	51	13.25～13.45	40	30～25	S	9.6	〃	W～E	1.18	10.30～11.05	40
4	1.18	85	13.24～13.40	40	65～56	SM	9.9	〃	ENE～WSW	1.20	9.30～10.00	40
5	1.20	96	11.05～11.20	40	12～16	SM	9.6	〃	N～NNE	1.21	9.20～ 9.50	40
6	1.21	90	10.15～10.28	40	13～14	S	8.6	〃	NNE～NE	1.22	11.10～11.40	40
7	1.27	42	11.19～11.25	40	37～33	S	9.4	〃	ENE～NEE	1.28	8.58～ 9.27	40
8	1.30	93	08.35～08.45	40	65～55	S	9.0	〃	W～E	2. 2	13.55～14.30	40
9	2. 4	86	09.15～09.22	34	70～60	SM	8.0	〃	N～S	2.10	09.20～09.50	34
10	2.10	79	11.20～11.40	34	82～80	MS	8.2	〃	N～S	2.12	10.05～10.35	34
11	2.12	89	10.40～11.10	38	5～ 6	S	8.7	〃	S～E	2.13	13.25～13.50	38

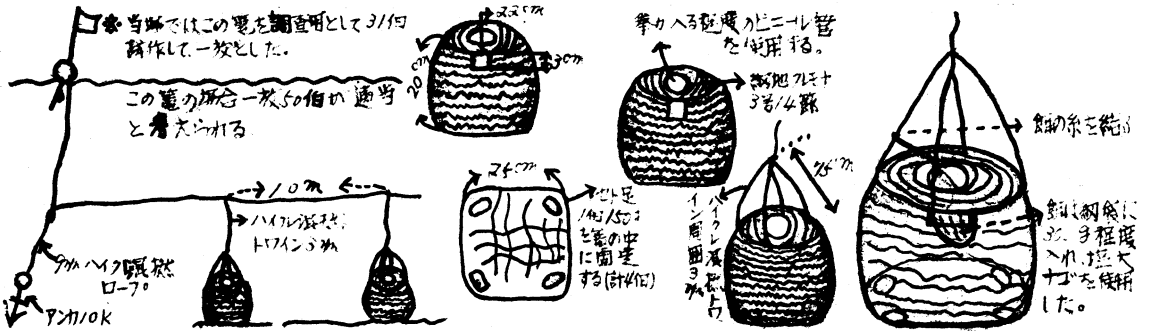
第２図　試験船調査漁場図（Ｓ４６・１月～２月まで）



2. 漁具漁法別時期別漁獲量

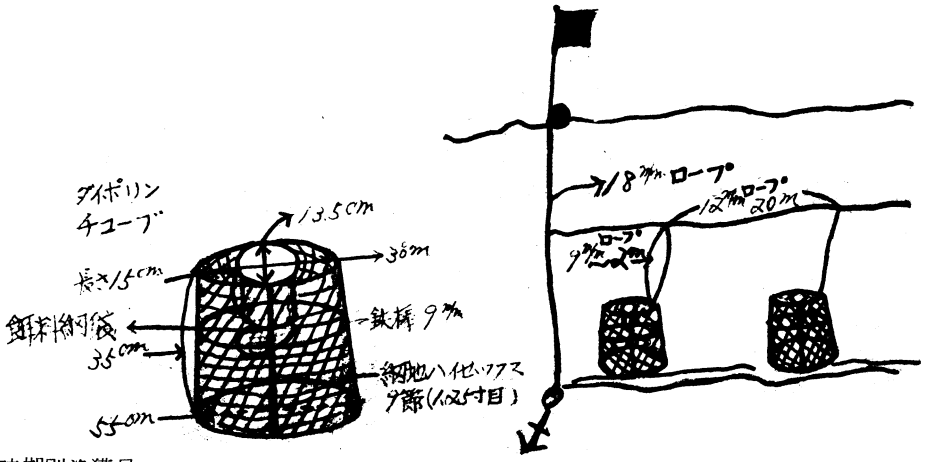
(1) 昭和45年7月の調査に使用した漁具は竹籠で30個一放しとした。漁具の主要寸法並びに操業方法は第3図のとおりである。

第3図　ツブ籠（竹製）操業図並びに寸法



(2) 昭和46年1月～2月まで調査した使用漁具の主要寸法並びに操業図は第4図のとおりである。

第4図　ツブ籠（鉄製）操業図並びに寸法



(3) 時期別漁獲量

(A) 昭和45年7月14日～7月30日までの16日間で漁獲されたバイ貝の日別，漁区別，水深，底質1籠当り捕獲数，平均殻長，平均体重を示せば第2表のとおりである。

第２表　バイ貝操業別漁獲表

月　　日	漁区番号	水　　深	底　質	漁獲数量	１籠当り	平均殻長	平均体重
7／14～15	1	7～15m	MS	204個	6.5　個	63.7 mm	38 g
15～16	2	12～16〃	MS	150〃	5　〃	63.5	37
16～17	3	9～10〃	S	0〃	0　〃	／	／
17～18	4	10～12〃	S	10〃	0.3　〃	63.8	37
18～19	5	9～12〃	MS	20〃	0.6　〃	63.6	37
19～20	6	9～12〃	MS	260〃	8.4　〃	64.1	38
20～21	7	9～12〃	S	180〃	5.8　〃	64.0	38
21～22	8	9～14〃	S	0〃	0　〃	／	／
22～23	9	12～15〃	MS	120〃	3.8　〃	63.7	37
23～24	10	12～16〃	S	12〃	0.38〃	63.0	37
24～25	11	13～15〃	S	200〃	6.4　〃	64.5	38
25～26	12	6～10〃	S	65〃	2.0　〃	64.2	37
26～27	13	7～ 8〃	S	90〃	2.9　〃	63.9	37
27～28	14	8～10〃	S	60〃	1.9　〃	62.6	37
28～29	15	6～ 8〃	S	33〃	1.0　〃	63.5	37
29～30	16	7～10〃	S	50〃	1.1　〃	64.0	38
計				1,454	3.0　〃		

(B)　昭和４６年１月～２月まで１１日間操業し漁獲された貝類の日別，種類別，漁場別，水深，底質，漁獲量，平均殻長，平均体重については第３表のとおりである。

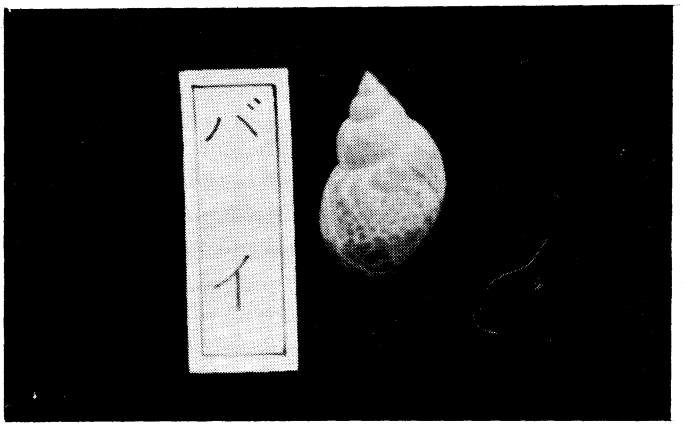
第3表　ツブ籠漁業操業別漁獲表（冬期間における）

月　日	種　類	漁区番号	水　深	底質	漁獲量	一籠当り	平均殻長	平均体重	備　考
			m		個	個	mm	g	
1.10～1.13	モスソガイ	77	55～45	S	11	0.3	38.4	15.9	
	マユツクリ	〃	〃　〃	〃	8	0.2	36.55	6.18	
1.13～1.15	モスソガイ	68	55～60	S	4	0.1	38.2	15.7	
1.15～1.18		51	30～25	S					ウニ～30個 アブラザメ～1尾 ヤドカリ～1個
1.18～1.20	モスソガイ	85	65～56	SM	20	0.6	35.1	10.71	
	マユツクリ	〃	〃　〃	〃	50	1.6	38.46	4.91	
1.20～1.21		96	12～16	SM					
1.21～1.22	バ　イ	90	13～14	S	1	0.03	6.8	41.0	カニ～1尾
									ネコザメ～1尾
1.27～1.28	モスソガイ	42	37～33	S	20	0.6	28.2	6.84	
1.30～2. 2	モスソガイ	93	65～55	S	95	3.1	32.33	10.73	
	マユツクリ	〃	〃　〃	〃	23	0.7	34.99	4.9	
2. 4～2.10	モスソガイ	86	70～60	SM	17	0.5	28.16	6.45	
	マユツクリ	〃	〃　〃	〃	64	2.1	30.39	3.54	
2.10～2.12	モスソガイ	79	82～80	S	50	1.6	27.49	4.81	
	マユツクリ	〃	〃　〃	〃	106	3.5	40.55	4.56	
2.12～2.13		89	5～6	S					カニ～1尾
									ネコザメ～1尾
計	モスソガイ				217				
	マユツクリ				251				
	バ　イ				1				
合　計					469				

3. 漁獲物組成

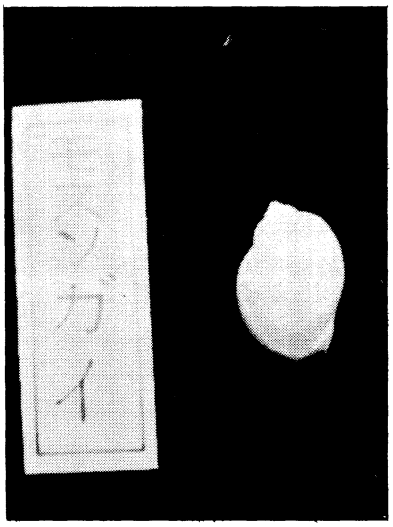
(1)　7月の漁獲物の中で，バイは優占種であり，他の貝はほとんど見られなかった。

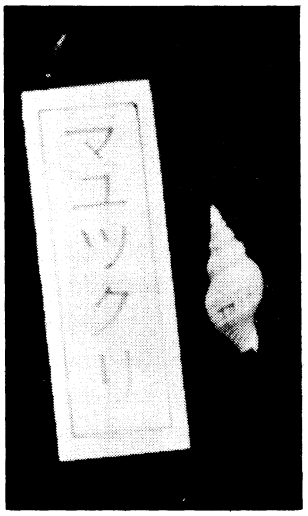
（バイ貝写真，殻長6～8cm）



(2) 昭和４６年１月～２月まで１１日間調査した中で漁獲された貝類はモスソガイ，マユツクリが主で，この種以外の貝類については，ほとんど漁獲されなかった。

（モスソガイ殻長3～4㎝）（マユツクリ殻長4㎝）写真参照 圖





Ⅳ　調査の成果および今後の課題

1. 調査の成果

(1) 委託船によるバイ籠試験を実施した結果好成績をあげたことから地元小型船（４～６トン級）５隻がバイ籠漁業を実施するようになった。

１隻当りの籠数は１５０～３００個（秋田式）で，１回操業１万個近い漁獲をあげた船もあり，７月から９月上旬までの間には，少なくとも１隻当り２０万円の水揚げをしているものと推定される。

本事業の企業としての見通しに希望がもたれるので，４６年には操業隻数も増加するものと思われる。

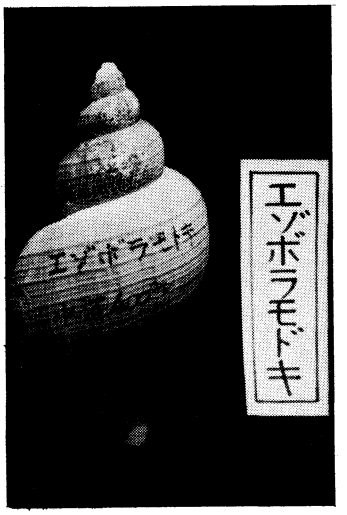
2. 今後の課題

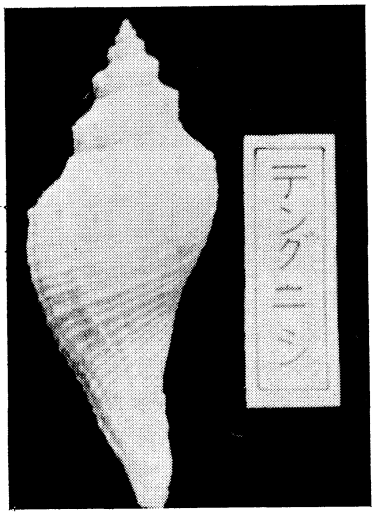
(1) 問　題　点

試験船青鵬丸によって昭和４６年１月～２月まで実施したツブ籠漁業試験は，さきにのべたとおりモスソガイ，マユツクリがほとんどで殻長も小型な上に漁獲量も少ないことからこの種の貝の冬期間における企業は現時点においては，有利とは認めがたい。

(2) 今後の課題

鰺ケ沢沖合水深２００m～４００mにはエゾボラモドキ（殻長１１～１２㎝），テングニシ（殻長１０～１１㎝），エッチュウバイ（殻長７～８㎝），の棲息が試験船幸洋丸のズワイガニ漁業試験の際混獲されており，特にエッチュウバイの分布は久六島周辺から沖合は小島周辺まで広範囲に棲息していることが確認されている。殻はこわれやすいが，肉身の歩留は良く美味で，鰺ケ沢では１個５０円程度で売買されていることから今後この種の漁場開発を実施して企業化をはかることも考えられる。


エゾボラモドキ


ヒメエゾボラ


エッチュウバイ